

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年3月号)

## & アジア・新興国FXフラッシュ

### ◆ 今月の相場見直し

※各マーケットコメントは2月26日(金) 9:00現在  
※休日の実績は前営業日

		2月25日現在 (矢印は1月末比)	3月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 106.21	⇒ 104.50 ~ 107.00
	米金利上昇に連れ一層の円安ドル高余地も限定的か		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.218	⇒ 1.19 ~ 1.23
	ユーロ・円 (円)	↗ 129.32	⇒ 124.00 ~ 131.00
コロナピークアウトもワクチン普及遅れは懸念され横ばい			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.402	⇒ 1.35 ~ 1.45
	ポンド・円 (円)	↗ 148.83	⇒ 143.00 ~ 153.00
ポンドの水準に高値警戒感も出やすいが長期の上昇トレンドは維持			
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 83.64	⇒ 80.00 ~ 86.00
	NZドル・円 (円)	↗ 78.30	⇒ 75.00 ~ 80.00
高値圏にあるがグローバルな景気回復期待と正常化期待が下支え			
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 30,168	⇒ 28,500 ~ 30,500
	景気回復期待は継続も、日銀会合でのETF買入方針の動向に注意		
長期 金利	NYダウ (ドル)	↗ 31,402	⇒ 29,500 ~ 32,000
	米金利が高止まりする中上下に振れやすい		
長期 金利	日本 (%)	↗ 0.153	↘ 0.05 ~ 0.25
	0.2%台を試した後、日銀会合を経て月末にかけ金利低下を想定		
長期 金利	米国 (%)	↗ 1.520	↗ 1.25 ~ 1.75
	景気回復期待の中で拡張的な財政政策の動向に注意		

### ◆ 今月の注目ポイント

#### 日米の金融政策決定会合に注目

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気 動向	○	<b>【メインは景気回復】</b> 金融市場ではコロナ後の景気回復を強く織り込んだ展開が続く。欧米では気温の上昇とともに感染者数の減少傾向が続くか、ワクチン接種が順調に進むか。景気回復の進捗を見極め。
金融 政策	◎	<b>【日銀政策点検】</b> 3月金融政策決定会合では12月会合で発表された金融政策点検の結果が発表される。市場ではETFの買入方針見直しや長期金利操作のレンジ拡大等の観測が高まっている。 <b>【FOMC】</b> 財政拡張や景気回復期待等から長期金利が上昇、一部で早期テーパリング観測も出る。執行部は従来の緩和的な姿勢を維持するとみるが、参加者の政策金利見直し等に変化がないか注目。
政治	◎	<b>【米国政治動向】</b> 1.9兆ドル規模の追加経済対策は2月末にも下院で可決予定。民主党内の中道派の動向は不透明で、3月前半とみられる上院審議では法案修正の可能性も残す。続いて政権から提出されるとみられるインフラ整備等の景気対策案も注目される。

### ◆ 新興国通貨見直し

人民元・円	⇒	16.2 ~ 16.7	レアル・円	⇒	18.0 ~ 21.0
バーツ・円	↘	3.40 ~ 3.55	メキシコペソ・円	↘	4.80 ~ 5.50
ルピア・円	↗	0.73 ~ 0.77	ルーブル・円	⇒	1.37 ~ 1.50
ルピー・円	↗	1.40 ~ 1.45			

### ◆ 今月の重要日程

1日(月) 米	2月ISM製造業	15日(月) 中	1・2月生産・小売・投資
3日(水) 米	2月ISM非製造業	16日(火) 米	2月小売売上高
5日(金) 中	全人代	17日(水) 米	FOMC (結果発表)
5日(金) 米	2月雇用統計	18日(木) 英	BOE金融政策委員会
10日(水) 米	2月CPI	19日(金) 日	日銀金融政策決定会合
11日(木) 欧	ECB理事会 (結果発表)	24日(水) 欧	3月PMI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年3月号)

## & アジア・新興国FXフラッシュ

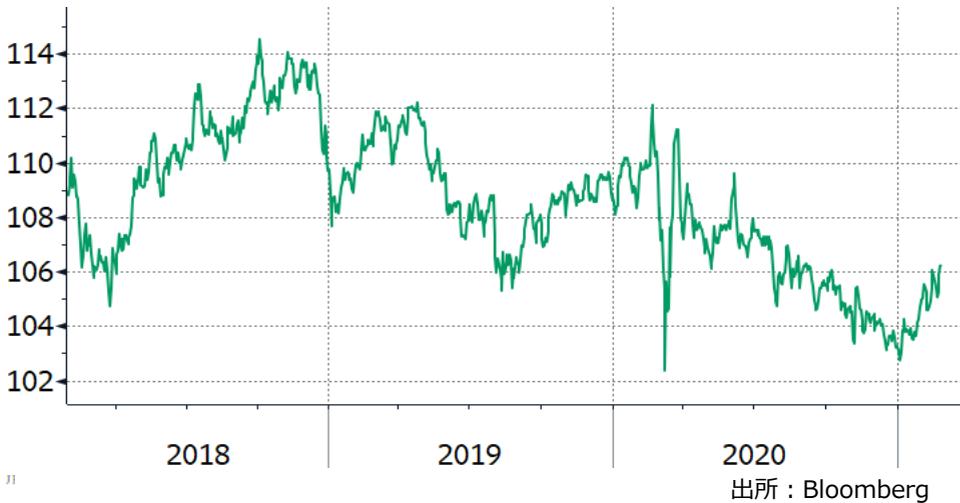
### ◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

#### ドル 円

米ドル円

⇒ ドル円は横ばい

104.50 - 107.00円



#### 米金利上昇に連れただ層の円安ドル高余地も限定的か

ドル円は米国景気回復への期待とそれに伴うインフレ期待上昇と米長期金利上昇の動きに連れ、106円台へと円安ドル高が進んだ。

米金利は2月末にかけて急ピッチの上昇となり1.6%を付ける場面も。FRB執行部が経済環境については金融緩和を縮小するには遠い状況とのハト派スタンスを維持する中で、金融市場との見方の乖離が大きくなってきていることは指摘できる。今後も米追加財政等の動向次第で金利上昇圧力かかる場面もあるとみるが、金利上昇の余地は次第に乏しくなるだろう。そうした中で米金利に連れただ動きも限定的となり、ドル円は105-106円台を中心としたレンジ推移を見込む。

一方でリスクは足元で発生した米金利上昇に伴う株式市場のバリュエーション調整の動き。一層の市場の混乱は見込まないものの、調整の動きが大きくなるとリスク回避の円高が優勢となり、一時的にドル円が下振れる可能性にも注意する必要がある。

#### ユ ー ロ

ユーロドル

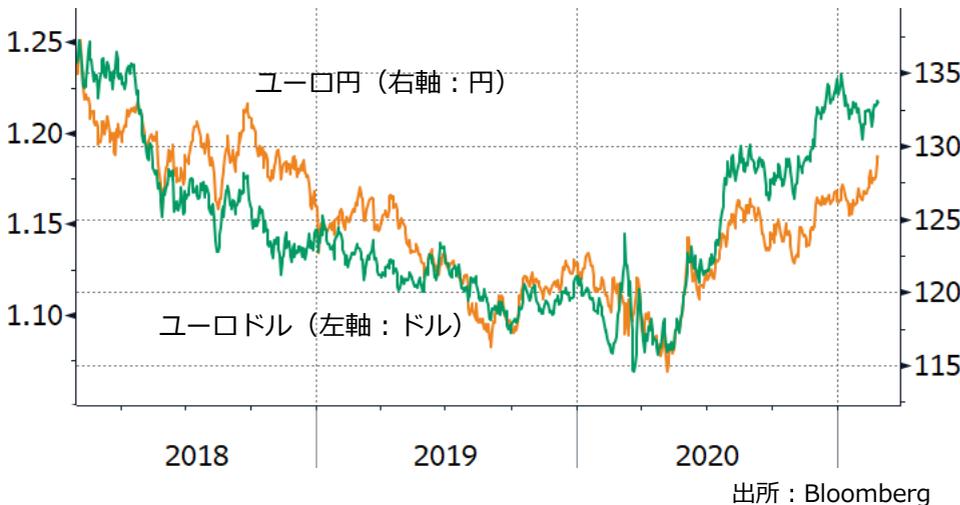
⇒ ユーロドルは横ばい

1.19 - 1.23ドル

ユーロ円

⇒ ユーロ円は横ばい

124.00 - 131.00円



#### ユーロドル、ユーロ円はともに横ばいを予想

2月のユーロは、ドルに対しては横ばい、円に対しては上昇も、その他豪ドルやポンドなど幅広い通貨に対しては下落した。ワクチンの普及や米国の経済対策への期待などからリスクオン相場となり、新興国通貨や資源国通貨などが選好された。

3月のユーロもドルや円に対して横ばい圏で推移するとみる。欧州でのコロナ感染拡大はピークアウトしており、各国のロックダウンも一部では緩和されつつあることから、欧州経済の先行きの回復期待はユーロを下支えするであろう。一方で、ECBによるマイナス金利深堀観測や米国や英国と比較したコロナワクチン普及の遅れなどはユーロ押し下げ要因となる。ユーロは足元の水準を概ね維持しながら、対ドル、対円共に横ばい圏での推移となろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

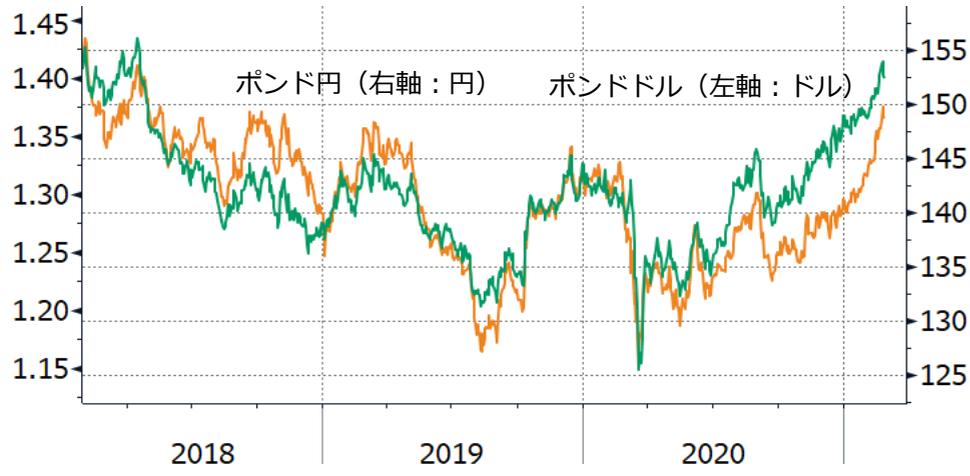
◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年3月号)

## ◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

### ポンド



出所：Bloomberg

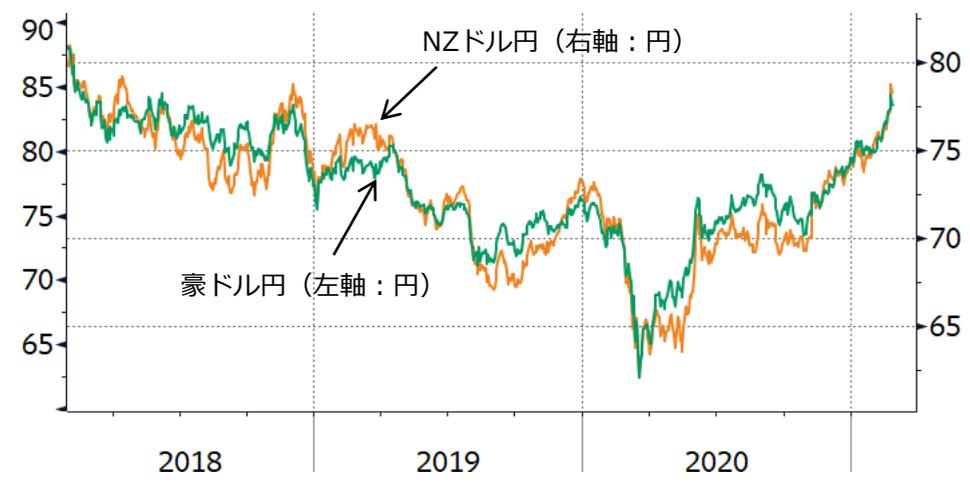
ポンドドル	⇒ ポンドドルは横ばい	<b>1.35 - 1.45ドル</b>
ポンド円	⇒ ポンド円は横ばい	<b>143.00 - 153.00円</b>

#### ポンドドル、ポンド円はともに横ばいを予想

2月のポンドは、対ドル、対円ともに大幅に上昇。主な要因は以下の3点、1点目は主要国で英国のコロナワクチンの接種率が高いこと、2点目はコロナ感染ピークアウトによりロックダウンの緩和の実施、3点目は英政策決定会合において経済の見通しが楽観的であることが示され、マイナス金利導入への期待が低下したこと。上記要因などを背景にポンドドルは約3年ぶりに1.4ドルの舞台を突破。

3月のポンドは横ばい圏を予想。3年ぶりの高値水準で高値警戒感も出やすいが、下落時は長期の上昇トレンドが意識され押し目買いも入りやすい。足元でロックダウンの緩和などから3月に公表される経済指標には改善が見られる可能性があり、相場を下支えするだろう。

### 豪ドル・NZドル



出所：Bloomberg

豪ドル円	⇒ 豪ドル円は横ばい	<b>80.00 - 86.00円</b>
NZドル円	⇒ NZドル円は横ばい	<b>75.00 - 80.00円</b>

#### 豪ドル円、NZドル円は横ばいを予想

2月のオセアニア通貨は世界的な景気回復期待を受けコモディティ価格が堅調に推移したことなどを受け、底堅い推移となった。豪ドル円は一時2018年2月以来の85円目前まで、NZドルも2018年12月以来の水準まで上昇。NZドルは、S&Pが同国経済のコロナからの回復を評価し、格付けを引き上げたことも好感された。

3月のオセアニア通貨は横ばい推移を予想。引き続きグローバルな景気回復期待が両国通貨を下支えしよう。また、両国のコロナ禍からの経済回復も順調の上、足元でワクチン接種も開始されたことから正常化への期待も高まる。一方で米国金利が大幅上昇しており、米国株が調整含みとなれば、両通貨も上値を抑えられよう。2日に開催予定のRBA理事会では、不均一な経済回復への懸念から緩和的な政策が継続されるとみる。一方のNZでは住宅バブルへの懸念から先行きの利下げ見直しには慎重になると見られ、NZドルを下支えしよう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年3月号)

## ◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

### 株式見通し



**日経平均**    ⇨ 日経平均は横ばい    **28,500 - 30,500円**

#### 日本株は横ばいを予想

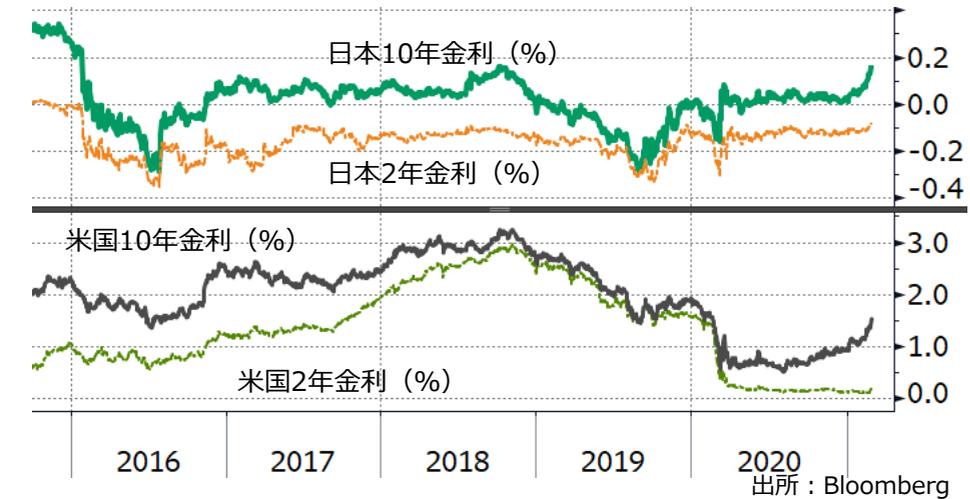
2月の株価は米国の景気回復期待や堅調な国内企業決算、国内GDPの上振れなどを受け上昇、日経平均株価はバブル期以来の3万円台を回復した。3月の日本株は横ばい推移を予想。グローバルな景気回復期待は継続するものの、株価は急ピッチな上昇となっているほか、米国金利上昇で米国株が不安定化していることも懸念される。また、日銀が足元でETFの買い入れ基準を変更している可能性があり、19日の決定会合でのETF買い入れ方針に注目が集まる。

**NYダウ**    ⇨ ダウは横ばい    **29,500 - 32,000ドル**

#### 米国株は横ばいを予想

2月は大規模財政成立期待や、ワクチン接種の進展期待等から株価は堅調な推移となったが、インフレ期待や金融政策の正常化を見込む動きから米国金利が急騰、株価もやや不安定となる局面もあった。引き続き米金利が高止まりする中、米国株は上下に振れやすい展開を予想。足元FRBは金利上昇に関して目立った懸念は表明していないものの、株価が不安定化する中で、先行きの利上げ見通しを含めて何らかのメッセージを発するかは注目。

### 長期金利見通し



**日本国債10年**    ⇩ 金利は低下    **0.05 - 0.25%**

#### 日本国債は0.2%台へ上昇後月末にかけて金利低下を予想。

日銀が3月会合で公表する政策点検で10年金利のターゲットレンジを拡大するとの思惑から米金利上昇局面で0.2%台を試すだろう。しかし日銀は10年ゾーンでは金利上昇を一方に促す政策をとることは考えづらい。同時にハト派姿勢も示すとみられ、また長期金利操作の中心レンジが0%であることに変わりはなく、結果発表後は大きく買い戻され金利低下する展開を予想。

**米国債10年**    ⇨ 金利は上昇    **1.25 - 1.75%**

#### 米国債は金利上昇を予想。

2月はコロナ対策案による景気の回復期待やインフラ投資などを中心とした財政拡張による増発懸念、軟調な入札などを背景に上昇。3月は引き続き拡張的な財政政策や景気の過熱により上昇圧力がかかりやすい。インフラ投資計画は大統領選挙時に4年で2兆ドルの支出を公約としたが、予算教書演説で更に規模が上振れた場合や社会保障の拡充などを盛り込んだ場合、金利は一段と上昇するとみる。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年3月号)

## & アジア・新興国FXフラッシュ

### ◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		2/25		3月の予想	2月のレビュー	3月の見通し
中国	人民元/円	16.44	➡	16.2~16.7	経済情勢、金融市場が安定的に推移する中で人民元は堅調に推移。ドル人民元は春節前ドル安で合いで6.43まで下げる場面もあったが、期間を通じて6.4元台でのレンジ相場が続いた。人民元は月末にかけてリスク選好の円安が優勢となり16円台半ばへと値を切り上げた。	引き続き堅調な国内経済と輸出の伸びを背景に人民元は堅調な推移が続くだろう。ドル人民元は6.4台、人民元円は16円台半ばを中心としたレンジを形成と予想する。3月の注目は5日から開催される全人代。今年度の経済目標とともに、「国内大循環を中心とした双循環」が具体化されるとみられる25年までの5か年計画、35年までの長期目標の方針が注目される。
	ドル/人民元	6.45	➡	6.35~6.55		
タイ	バーツ/円	3.51	➡	3.40~3.55	タイバーツ相場は堅調な推移が続く中で、ドルバーツはドルの動きに概ね連れた動きで1ドル30バーツを挟んだレンジ推移となった。バーツ円は円安基調で高値3.54をつけた。月末にかけて米株式市場が急落すると新興国通貨が総じて売られバーツも値を切り下げた。	タイ国内でもコロナ感染者の増加ペースは緩やかになりつつある一方で、タイ政府は非常事態宣言について10回目の延長を行い3/31まで延長とした。デモ頻発等の政治的な思惑もあり非常事態宣言が常態化しており、観光業の復興は遠い状況。タイバーツはたまた弱含みとみるが、グローバルの株式市場の調整が落ち着けば下値も限られるとみている。
	ドル/バーツ	30.13	➡	29.8~31.0		
インドネシア	ルピア/円	0.755	➡	0.73~0.77	2月のインドネシアルピアは月の半ばまでは底堅く推移していたものの、下旬にかけて下落し、上昇分を吐き出す展開。19日の金融政策決定会合では大方の予想通り0.25%の利下げが発表され、経済成長見通しも下方修正した。また首都を含む地域での社会的制限措置が延長されたことも上値を抑えた。対円でも対ドルと同様の値動きとなった。	堅調な中国経済を背景に、中国との関係の深いインドネシアルピアは引き続き底堅いと予想。一方、引き続き同国の新型コロナの感染状況は高止まりしており、為替動向次第では利下げの可能性も引き続き残るが、米金利が上昇する中で一段の利下げも難しい。米金利上昇と米国株の下落に伴うドルキャリアー取引の巻き戻しには注意が必要とみる。
	ドル/ルピア	14,083	➡	13,800~14,200		
インド	ルピー/円	1.47	➡	1.40~1.50	2月のインドルピーは総じて底堅い展開となった。月初にインド政府が大規模な21年度予算案を提示したことや、不良債権の受け皿となるバッドバンク設立が好感されたこと、グローバルな景気回復期待、海外からの旺盛な株式相場への資金流入が引き続きインドルピーを押し上げた。対円でもほぼ一貫して上昇となった。	政府が発表した21年度予算案を受け財政赤字の拡大懸念から金利は上昇。一方足元落ち着きもみられるが、引き続きインフレへの懸念から、インド中銀は利下げに踏み込みづらい状況。ただ、引き続きグローバルな景気回復基調から株式相場への資金流入が継続しており、ルピーの底堅い動きは継続しやすいとみる。一方で米金利上昇と米国株の下落に伴うドルキャリアー取引の巻き戻しには注意が必要とみる。
	ドル/ルピー	72.43	➡	71.0~73.0		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年3月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## ◆ 今月の相場見通し⑤ 新興国通貨 (中南米・ロシア)

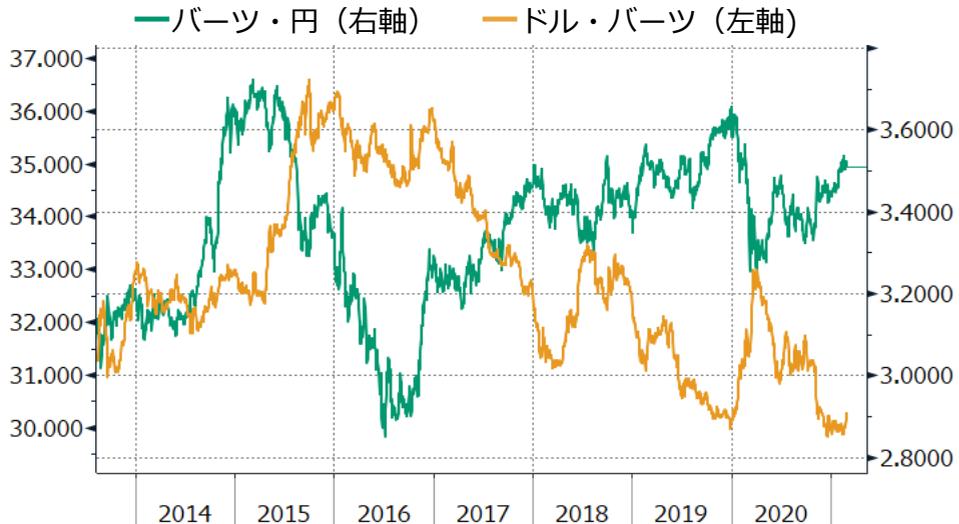
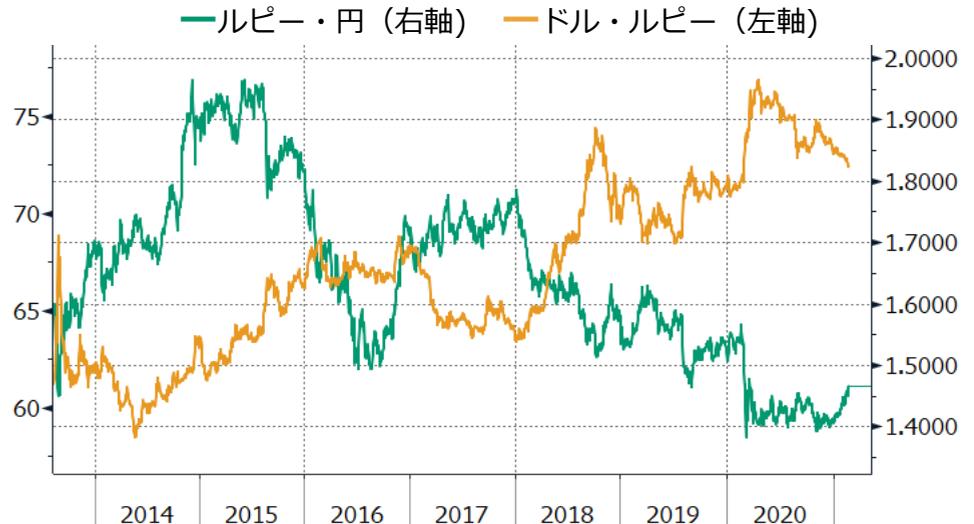
		2/25		3月の予想	2月のレビュー	3月の見通し
ブラジル	リアル/円	19.21	➡	18.0~21.0	2月のブラジルリアルは、対ドル、対円ともに横ばい圏で推移。資源価格が堅調に推移していることや直近の消費者物価の上昇により先行きの利上げ可能性が高まったことがリアルを支援。一方、財政拡張などによる債務の増加が嫌気された。2月は横ばい圏で小幅な動きとなった。	ブラジルリアルは横ばい圏を予想。先進国でコロナワクチンの普及が始まっている中、ブラジルの普及率は低水準。足元でもコロナ感染者数が高水準であり、リアルの重しとなる。一方、経済は緩やかな回復基調にあり、今年中に利上げの可能性も示唆されており、リアルは横ばい圏で推移するとみる。
	ドル/リアル	5.52	➡	5.00~5.80		
メキシコ	ペソ/円	5.09	➡	4.80~5.40	2月のメキシコペソは、中旬まで上昇もその後下落し横ばい圏で推移。原油価格などが堅調に推移したことから月半ばまでは上昇も、11日の金融政策決定会合では利上げが決定し、その後ペソは軟調な展開となった。	メキシコペソは下落を予想。足元の消費者物価は引き続き中央銀行の目標上限を下回っており、2月会合に続き、更なる金融緩和余地を残していることから、ペソは上値の重い展開が続くと予想する。
	ドル/ペソ	20.85	➡	19.5~22.0		
ロシア	ルーブル/円	1.42	➡	1.37~1.50	2月のロシアルーブルは、対ドル、対円ともに上昇。ルーブル円は、20年8月以来の水準まで上昇。原油価格が足元で堅調に推移していることがルーブルの追い風となった。12日に開催された金融政策決定会合では政策金利を据え置き、今後利下げを行わないこと旨を発表した。	ロシアルーブルは横ばい圏で推移と予想。原油価格は一時的な要因もあって上昇していたことから、いったん上昇一服となり、ルーブルの上値を重くすると見る。一方、2月の会合を受けて、今後の金融政策では利上げも意識され、ルーブルの支援材料となろう。3月は横ばい圏で推移するとみる。
	ドル/ルーブル	74.75	➡	72.0~78.0		

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年3月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## ◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

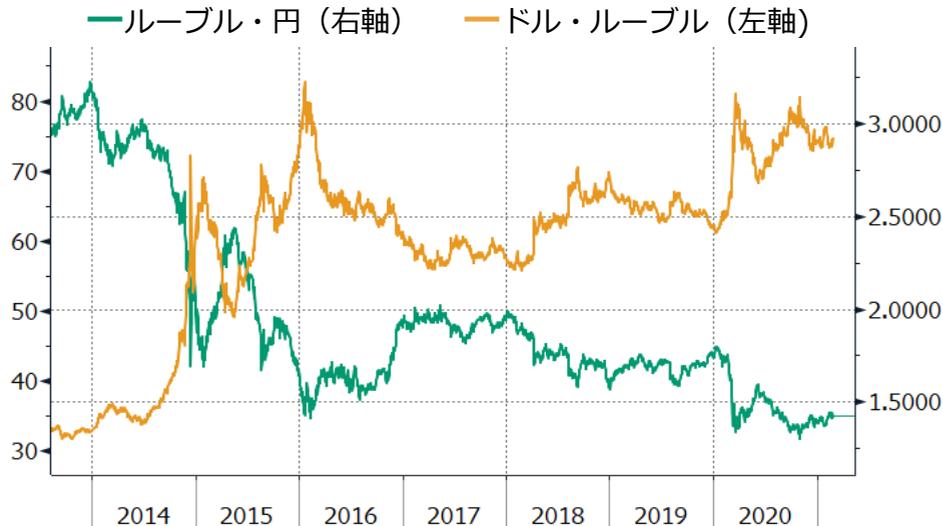
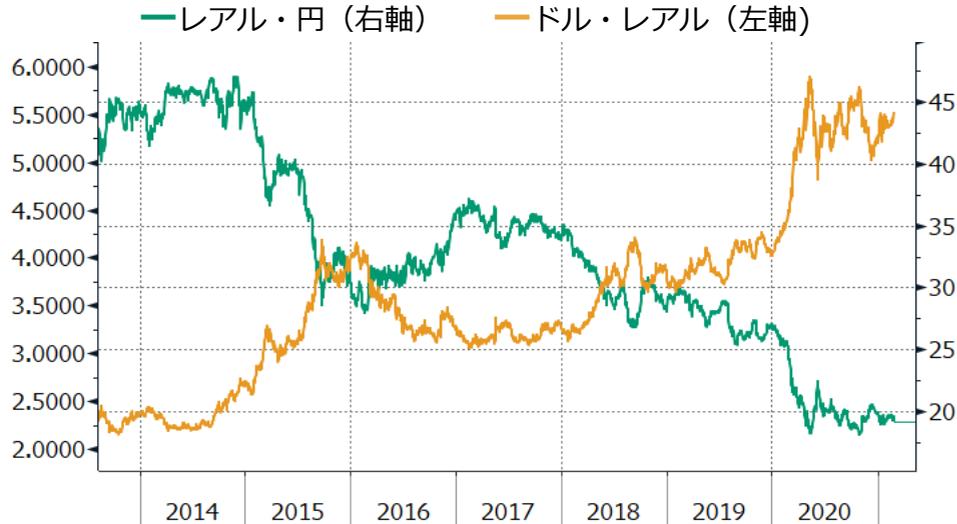
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年3月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## ◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年3月号)

## ◆ 年間為替見通し

		2021年				ポイント
		3月	4~6月	7~9月	10~12月	
ドル円	レンジ	<b>104.5~107</b>	<b>104~109</b>	<b>105~111</b>	<b>106~112</b>	コロナ禍からの回復を米経済が牽引、年後半にかけては米長期金利が上昇しドル円は110円を目指す動き。
	期末値	<b>106</b>	<b>108</b>	<b>108</b>	<b>110</b>	
ユーロドル	レンジ	<b>1.19~1.23</b>	<b>1.12~1.20</b>	<b>1.11~1.19</b>	<b>1.10~1.18</b>	欧州復興基金設立をきっかけとしたユーロへの期待はあるものの、ドル安の一服や各国の選挙などへの警戒感は強く上値は重い。
	期末値	<b>1.20</b>	<b>1.17</b>	<b>1.16</b>	<b>1.14</b>	
ユーロ円	レンジ	<b>124~133</b>	<b>119~129</b>	<b>119~130</b>	<b>119~130</b>	
	期末値	<b>127</b>	<b>126</b>	<b>125</b>	<b>125</b>	
ポンドドル	レンジ	<b>1.35~1.45</b>	<b>1.29~1.40</b>	<b>1.27~1.39</b>	<b>1.25~1.37</b>	主要国のワクチン接種普及に伴い、足元の英国の高い普及率の優位性が薄れることに加え、原油価格の上昇一服などもポンドの上値を抑えるとみる。
	期末値	<b>1.39</b>	<b>1.35</b>	<b>1.33</b>	<b>1.31</b>	
ポンド円	レンジ	<b>143~153</b>	<b>138~152</b>	<b>136~149</b>	<b>138~150</b>	
	期末値	<b>147</b>	<b>145</b>	<b>143</b>	<b>144</b>	
ドル人民元	レンジ	<b>6.35~6.55</b>	<b>6.40~6.80</b>	<b>6.40~6.80</b>	<b>6.60~6.90</b>	堅調な中国経済が人民元を押し上げるが、年後半はグローバル経済の回復で人民元の優位性が薄らぐ。
	期末値	<b>6.45</b>	<b>6.50</b>	<b>6.60</b>	<b>6.70</b>	
人民元円	レンジ	<b>16.2~16.7</b>	<b>15.6~17.0</b>	<b>15.6~17.0</b>	<b>15.5~16.9</b>	
	期末値	<b>16.4</b>	<b>16.6</b>	<b>16.4</b>	<b>16.4</b>	
豪ドル円	レンジ	<b>80.0~86.0</b>	<b>80.0~88.0</b>	<b>80.0~88.0</b>	<b>82.0~90.0</b>	グローバルな景気回復期待から底堅い動きが継続。中国との貿易摩擦の先鋭化には注意。
	期末値	<b>83.0</b>	<b>86.0</b>	<b>86.0</b>	<b>87.0</b>	
タイバーツ円	レンジ	<b>3.40~3.55</b>	<b>3.30~3.65</b>	<b>3.30~3.70</b>	<b>3.40~3.75</b>	堅調地合いが続くとみるが、非常事態宣言続くタイ国内の経済状況鑑みればパーツ高余地も限定的
	期末値	<b>3.47</b>	<b>3.50</b>	<b>3.50</b>	<b>3.55</b>	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年3月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## ◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
3/1(月)	10-12月期法人企業統計調査	2月ISM製造業景況指数	(中) 2月製造業PMI	3/15(月)	1月機械受注	3月NY連銀製造業景況指数	(中) 2月生産・小売・投資
3/2(火)	10年債入札 1月労働力調査		(豪) 準備銀行理事会	3/16(火)		20年債入札 2月小売売上高	(独) 3月ZEW景況指数
3/3(水)		2月ADP雇用統計 2月ISM非製造業景況指数 米地区連銀経済報告		3/17(水)	2月貿易統計	2月住宅着工・許可件数 FOMC (結果発表)	
3/4(木)	30年債入札	1月製造業受注		3/18(木)		3月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	(英) BOE金融政策委員会
3/5(金)		1月貿易収支 2月雇用統計		3/19(金)	2月消費者物価指数 黒田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合 (結果発表)		
3/8(月)	10-12月期GDP (二次速報値) 2月景気ウォッチャー調査			3/20(土)	(春分の日)		
3/9(火)	1月家計調査 1月毎月勤労統計 (速報) 5年債入札	3年債入札		3/22(月)		2月中古住宅販売	
3/10(水)		10年債入札 2月CPI	(中) 2月CPI	3/23(火)		2月新築住宅販売 2年債入札	
3/11(木)	20年債入札 2月企業物価指数	30年債入札	(欧) ECB定例理事会	3/24(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (1/20~21開催分)	5年債入札	(欧) 3月PMI (速報値)
3/12(金)		2月PPI		3/25(木)	40年債入札	10-12月期GDP (確定値) 7年債入札	
3/14(日)		(夏時間開始)		3/26(金)		2月個人所得・消費支出	(独) 3月IFO企業景況感指数
				3/29(月)			
				3/30(火)	2月労働力調査 2年債入札	3月消費者信頼感指数	
				3/31(水)	2月鉱工業生産 2月住宅着工件数	3月ADP雇用統計	(中) 3月PMI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年3月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## 中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【1/22 ~ 1/28】

### ◎ 国家開発区、蘇州工業園区が1位

中国商務が発表した全国の国家級経済開発区（以下、「開発区」）を対象に実施した20年度の評価結果によると、蘇州工業園区が引き続き1位となった。2位から10位までは、広州開発区、天津開発区、北京開発区、昆山開発区、江寧開発区、青島開発区、煙台開発区、南京開発区、杭州開発区だった。前年10位だった武漢開発区は新型コロナウイルスの影響により14位に後退した。また、外資利用額（増資を含む）トップ3は天津開発区、広州開発区、武漢開発区となっている。貿易額トップ3は蘇州工業園区、昆山開発区、広州開発区となっている。

【1/29 ~ 2/4】

### ◎ 20年の国内スマホ市場トップは華為

米調査会社IDCによると、2020年の中国スマートフォン市場において、ファーウェイ（中国）の出荷台数が1億2,493万台と首位を維持したが、前年比11.2%の減少となった。また、市場シェアは38.2%だった。なお、2位はvivo（中国、13.5%減の5,750万台）、3位はOPPO（中国、9.8%減の5,670万台）、4位はシャオミ（中国、2.5%減の3,900万台）、5位はアップル（米国、10.1%減の3,610万台）だった。中国市場全体の出荷台数は11.2%減の3億2,570万台だった。

## 主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/3	2020/4	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1
実質GDP成長率	%	-6.8	-	-	3.2	-	-	4.9	-	-	6.5	-
消費者物価上昇率	%	4.3	3.3	2.4	2.5	2.7	2.4	1.7	0.5	-0.5	0.2	-0.3
都市部調査失業率	%	5.9	6.0	5.9	5.7	5.7	5.6	5.4	5.3	5.2	5.2	-
輸出額	10億ドル	184.6	199.5	206.5	212.9	236.9	234.4	238.7	236.2	267.0	281.9	-
輸入額	10億ドル	164.8	154.6	143.9	166.6	175.0	175.9	202.0	178.2	191.5	203.8	-
経常収支	100万ドル	-33,696	-	-	76,472	-	-	168,706	-	-	298,906	-
外貨準備高	10億ドル	3,060.6	3,091.5	3,101.7	3,112.3	3,154.4	3,164.6	3,142.6	3,128.0	3,178.5	3,216.5	3,210.7
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.02	7.07	7.11	7.08	7.01	6.93	6.81	6.70	6.60	6.54	6.47

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年3月号)

## & アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

### ○中国ネットユーザーの群像について

中国インターネット情報センターが発表した第47回の統計データによると、2020年末まで、中国のネットユーザーの規模は9.89億人に達しました。前年同期比8,540万人増加し、普及率は70.4%に上っています。

職業別で見れば、学生が21.0%で最も多く、次いでフリーターと個人経営者が16.9%と2位になっています。性別から見れば、51（男性）：49（女性）となっており、人口全体の男女比率とほぼ一致しています。学歴からみれば、大学以下が60.9%となっており、小学校及びそれ以下が19.3%となっている状況です。年齢層では、20代が17.8%、30代が20.5%、40代が18.8%、50代以上が26.3%となっており、シルバー世代の伸びが著しかったようです。また、収入層から見ると、51.1%のネットユーザーの月収が3,000円未満となっており、5,000円以上のシェアは29.3%となっていることが分かりました。

インターネットの浸透につれ、ネットユーザーから生じたネット上のコメントは「民意」として取り上げられたり、意図的に大きくされたりすることがしばしばあります。従って、ネット時代には無意識に非合理的な群衆意見や行動に巻き込まれないよう、自分なりの判断を持つことがより大事になるのではないかと思います。



◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年3月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2020年12月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済はまだ規模ながら回復傾向が続いた。個人消費指数は前年同月比2.7%上昇。特に耐久消費財が拡大した。工業生産指数は同2.4%減。民間投資指数は同4.5%上昇。資本財輸入等に伴う機械・設備投資は回復した一方、建設投資は前月に続いて縮小している。公共投資は前年同月比で拡大した。観光部門は外国人旅行者数が一部の旅行規制緩和により前月比で増加したが、まだ低水準にとどまっている。

◆タイ商業省によると、2020年12月の輸出額は前年同月比4.7%増の200億8,274万米ドルと8カ月ぶりプラス成長に転じた。在宅勤務関連製品や新型コロナウイルス防止関連物資等の輸出は好調だったことが挙げられる。農産物・加工品の輸出は前年同月比2.1%増、工業製品は同6.7%増。ゴム手袋は3.2倍に増加、また医療機器、携帯電話・同部品、家電、家具、化学品の輸出は2桁の伸びを記録した。市場別では、米国、中国、日本、韓国、インド向

けが伸びた。東南アジア諸国連合（ASEAN）、欧州連合（EU）、中南米向けは減少した。輸入額は同3.6%増の191億1,916万米ドル。この結果貿易収支は9億6,358万米ドルの黒字となった。2020年通年の輸出額は前年比6.0%減の2,314億6,844万米ドルだった。一方、12月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=30.07パーツで、前月の30.46パーツ比パーツ高となった。

◆タイ商業省が発表した1月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比0.34%下落した。前年同月を下回ったのは11カ月連続。食品・飲料は同0.58%上昇した。非食品は同0.83%下落。同月から指数の基準年を従来の2015年から2019年に変更し、指数算出の対象品目を422品目から430品目に増やした。

## 主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/3	2020/4	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1
実質GDP成長率	%	-2.1	-	-	-12.1	-	-	-6.4	-	-	-4.2	-
消費者物価上昇率	%	-0.5	-3.0	-3.4	-1.6	-1.0	-0.5	-0.7	-0.5	-0.4	-0.3	-0.3
失業率	%	1.0	1.0	1.0	1.0	2.2	1.9	1.8	2.1	2.0	1.5	-
輸出額	100万ドル	22,330	18,949	16,285	16,464	18,819	20,212	19,621	19,377	18,933	20,083	19,707
輸入額	100万ドル	20,813	16,486	13,584	14,785	15,476	15,863	17,391	17,330	18,880	19,119	19,909
経常収支	100万ドル	975	264	867	182	1,599	3,545	1,427	1,000	-1,476	-693	-673
外貨準備高	10億ドル	226.5	235.7	237.3	241.6	250.4	254.5	251.1	248.5	253.5	258.1	256.8
主要政策金利	%	0.75	0.75	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	32.1	32.6	32.0	31.2	31.4	31.2	31.4	31.3	30.5	30.1	30.0

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



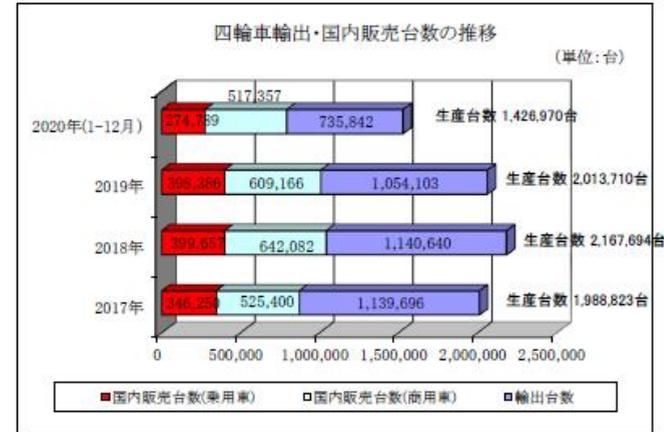
# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年3月号)

## タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

出所:タイ工業連盟(FTI)

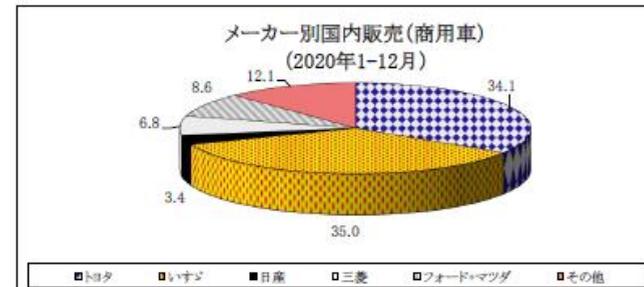
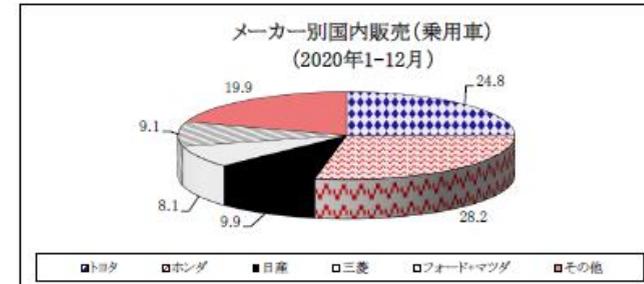
		2017年	2018年	2019年	2020年 (1-12月)	前年同期比 (%)	12月	
<b>【台数】</b>		(台)						
四輪	生産台数	乗用車	826,787	884,609	804,340	542,437	67.4	54,137
		商用車	1,162,036	1,283,085	1,209,370	884,533	73.1	88,832
		合計	1,988,823	2,167,694	2,013,710	1,426,970	70.9	142,969
	国内販売台数	乗用車	346,250	399,657	398,386	274,789	69.0	38,130
		商用車	525,400	642,082	609,166	517,357	84.9	65,959
		合計	871,650	1,041,739	1,007,552	792,146	78.6	104,089
輸出台数		1,139,696	1,140,640	1,054,103	735,842	69.8	68,481	
二輪	生産台数	2,055,193	2,063,076	1,948,480	1,615,319	82.9	159,099	
	国内販売台数	1,810,771	1,788,323	1,718,587	1,516,096	88.2	123,844	
	輸出台数	849,081	886,275	948,839	727,152	76.6	78,429	
<b>【完成車輸出金額】</b>		(百万バート)						
四輪		603,038	594,810	545,968	410,912	75.3	39,217	
二輪		54,828	61,654	69,933	85,802	122.7	32,757	



### 【メーカー別国内販売台数】

出所:トヨタ自動車

		2017年	シェア (%)	2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年 (1-12月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	12月
トヨタ	乗用車	96,606	27.9	112,394	28.1	117,708	29.5	68,152	57.9	24.8	8,811
	商用車	143,531	27.3	202,719	31.6	214,672	35.2	176,164	82.1	34.1	24,386
	合計	240,137	27.5	315,113	30.2	332,380	33.0	244,316	73.5	30.8	33,197
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	160,550	30.6	177,864	27.7	168,215	27.6	181,194	107.7	35.0	22,917
	合計	160,550	18.4	177,864	17.1	168,215	16.7	181,194	107.7	22.9	22,917
ホンダ	乗用車	95,078	27.5	95,793	24.0	96,154	24.1	77,419	80.5	28.2	8,378
	商用車	32,690	6.2	32,497	5.1	29,679	4.9	15,622	52.6	3.0	1,697
	合計	127,768	14.7	128,290	12.3	125,833	12.5	93,041	73.9	11.7	10,075
日産	乗用車	35,283	10.2	43,991	11.0	35,809	9.0	27,120	75.7	9.9	2,454
	商用車	24,426	4.6	28,403	4.4	28,605	4.7	17,438	61.0	3.4	1,207
	合計	59,709	6.9	72,394	6.9	64,414	6.4	44,558	69.2	5.6	3,661
三菱	乗用車	22,833	6.6	31,594	7.9	38,879	9.8	22,363	57.5	8.1	2,518
	商用車	46,904	8.9	52,966	8.2	49,365	8.1	35,046	71.0	6.8	3,505
	合計	69,737	8.0	84,560	8.1	88,244	8.8	57,409	65.1	7.2	6,023
その他	乗用車	96,450	27.8	115,885	29.0	109,836	27.6	79,735	72.6	29.0	15,969
	商用車	117,299	22.4	147,633	23.0	118,630	19.5	91,893	77.5	17.7	12,247
	合計	213,749	24.5	263,518	25.4	228,466	22.7	171,628	75.1	21.8	28,216
合計	乗用車	346,250	100.0	399,657	100.0	398,386	100.0	274,789	69.0	100.0	38,130
	商用車	525,400	100.0	642,082	100.0	609,166	100.0	517,357	84.9	100.0	65,959
	合計	871,650	100.0	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	792,146	78.6	100.0	104,089



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。